

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念、各ユニットの理念はつくっている。利用者がその人らしく、利用者主体の理念として、又、ケアの方向性を導くものとして考えている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日頃のケアの中で困った時には理念を道しるべとし、スタッフへの投げかけもやっている。</p>	<p>再度、ケアと理念の意味を振り返る意味で、理念の作りなおし、見直しを計画している。改めて、理念の重要性を理解でき、ケアの方向性を統一できるよう取り組む予定にある。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの目立つ部分に理念を貼り出している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>ホーム側からの地域住民へのアピールとして、町内のごみ拾い活動を行っている。又、町内を散歩したり、商店へ利用者と一緒にでかけたりと、挨拶を交わす事を意識し、その他、地域包括支援センターの活動を通して、地域住民との交流の場へも参加している。</p>	<p>老人会、自治会にも参加していきたいと考えている。運営推進会議時、町会長や、民生委員さんからの情報の元、今年度は参加していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>入社時の初回研修において、外部評価についても触れ、具体的な改善に関する取り組みを行っていることを教育していきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>利用開始時、具体的に利用者、ご家族様の要望について(職員との話し合いについて)を記載する様式を作成し、利用者、ホーム側互いに納得できるものへとつなげていきたい。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>しばらく、職員の大きな移動は行っていない。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間を通して、職員社内研修計画を管理者、経営者、利用者間で話し合い、計画を立てている。本年度の計画においても、現在プログラムを検討している最中である。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの連携を図っている。一般職員間での研修や、祭りへの参加活動を通じて、感じた事などを元にサービスの質の向上を図っている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人面談などを通じて、ストレスに感じている事なども聞き出している。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>教育についてはしっかり考えており、力を入れている。更に経営者自ら学ぶことでもしており、研修等も充実していると考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時や、面会時、ケアプラン変更時などには必ず本人、ご家族様の要望を聞いたり、困っている事はないか話を聞いている。又、それをプランに反映している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族様が困っている事、希望を必ず聞きながら、ご家族様、本人に必要なサービスの紹介に努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規の入居に関しては、ご家族様、本人、職員間の連携を大切にしている。情報の共有に努め、本人ができるだけ安心して生活を送れるようケアプランにも反映させている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に対しては、人生の先輩として尊敬する姿勢が大切である事を職員一同にも指導している。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様に対しても、やはり支援しているという一方的な考えはなく、ご家族様と共に支え合うようにしている。</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>具体的にどのような関係がよりよい支援であるかは難しいと思う。具体策は特に行っていない。</p>		
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ホームに入居する前に付き合いのあった方へ向けて年賀状を書いたり、電話をする援助をしたりと関係が途切れない様支援している。</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者が孤立しないようなプランを立て、又ケアへつなげる事はしている。特に孤立している利用者はいない。(本人が1人を望む場合は、見守っているが、職員との接触などを多くしている。)</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用終了後も利用者が安心して生活を送れるよう、その後の居宅サービスの紹介などに努めている。ほぼ病院への退去が多いが、家族との情報交換等を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>プラン見直し、作成時の他、ホーム内での利用者へ向けたアンケート調査などもとり、利用者の思いや希望に強く着目している。ホーム側でできる事、出来ない事については、本人、又はご家族様と十分に話し合いをしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に必ず情報を収集している。又、入居してからもご家族様や本人からの情報を得て記録している。(サービス利用の経過は入居する前に行っている。)</p>	<p>今年度の社内研修に取り入れられている。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1人1人の暮らし方には十分に気を使っている。毎日のカンファレンスの中でスタッフからも、利用者の状況について話し合いを行っている。その他、毎月の気づきシートを各担当者が記録しており、総合的な把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>プラン作成時は、ご家族様、利用者、スタッフ、看護師よりの意見を聞き作成している。</p>	<p>今年度の社内研修に取り入れられている。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月事にプランの見直し(職員間のカンファレンス)を行っている。状態変化時は現状に即したプランの作り直し、及び追加等に対応している。本人と話し合いながらプランを作る事もあるし、家族へ原案をみてもらい、更にくづけしながらよりよいケア計画に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランを元に介護記録を記入する事ができているので、ケアの実践やその結果などもよく記載されている。それを元に介護計画の見直しも行われている。		記録の書き方～プラン作成、見直しに至るまでの経過について、職員研修を行う予定にある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や、医療における要望等は事業所の機能を活かし支援している。ショートステイ等対応可能となっているが、現在はまだ利用例なし。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	身元保証人がいない利用者へ本人の意向を伺い、民生委員の方と面会するお手伝いをさせて頂いたこともある。又、今後も支援していく予定にある。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、医療保険適応のデイサービス利用相談等を行ってきた。実際に通う事は出来なかったが、今後も利用者に見合ったサービス提供を心がけている。地域包括支援センターにおいては、相談をしながら地域の健康教室などへの参加はさせていただいている。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などを通じて困難事例における相談をしている。又、権利擁護も利用しながら利用者によりよいケアは常日頃行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人、家族の希望を取り入れている。状態変化にて他の病院が必要な場合であれば、その都度本人又はご家族様と話し合いを行い納得した上で病院を決めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症である診断を受けて入居してくる為、中には詳しい医師でない事もある。必要時、相談したり、専門病院を紹介したりして頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム看護師に定期的、又必要に応じて健康管理の相談を行っている。医療活用時の相談も行いながら連携を図っている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、2週間の規定がある事をあらかじめ医療機関と相談し、入院期間の見極めや相談を積極的に行っている。退院の見込みがあると医師の判断があった場合には、利用者、ご家族様の希望を受け入れる体制もとっている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に重度化した場合や、見取りに関しては本人、ご家族様の意思を確認するようにしている。実際に状態変化し、重度化した際に改めて話し合いをする場を設ける事になっている。		ご家族様との話し合いについて、文書化していく。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム内での話し合いを元に、かかりつけ医との連携をはかっている。周囲の関係者を交え最善の方法をとるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>自宅へ帰った方については、本人とよく相談をし、自宅へ帰ってからも安心して生活できるよう、できるだけ援助をし、見送った事もある。今後もそのような方向性である。又、帰る予定、希望のある入居者に対しても、プランの中に自宅へ帰ってからも不安にならないよう、様々なプログラムを検討するようにしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや、個人情報の取り扱いについては、職員同士、定期的に話合う事を行っている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の思いや、希望を表出できる環境には努めている。わかる力に合わせた説明や声かけにおいてもスタッフへ昨年度社内研修を行っている。利用者の思いを大切にできるケアができるように、日々カンファレンスの中でも見直しをしている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員間でのカンファレンスでは、必ず利用者が主体である事や、その人を重視、中心としたケアを中心に話し合いを行っている。どうしても、希望に添えない場合は利用者へ納得していただけるよう説明を行っている。</p>		<p>その人らしい暮らしを支援する事については、全職員が理解しているとは言い切れない。その人らしい生活を送る事について、研修をし、ケアにおける倫理についても研修項目にあげている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個人の要望を聞いて、美容院、理容院へ通う事のケアを行っている。外出時や、行事の際は忘れずオシャレを意識できるような、洋服を選ぶ事もケアの一環として取り扱っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時に、必ず利用者の食べたいものを聞き健康に留意しながらメニューへ取り入れている。又、可能な限り利用者 と盛り付けを行ったり、利用者 と片付けを行っている。(習慣となっており、役割として楽しめる利用者もいる。)		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に一人ひとりの状況に合わせて支援している。日常的な楽しみの一環としてプランへも盛り込まれている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の尿量や、パターンに合わせて排泄の援助をしている。(プランにも盛り込まれており、状態の変化や、排泄に関わる変化が生じた際もすみやかに見直しをし、職員間でカンファレンスを行っている。)		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は、透析患者もいる為概ね決まっている。時間は、毎日利用者へ確認の元決め、本人の意向を大切にしている。他にも楽しめる援助として、入浴剤を好みで使用したり、その日に入浴できない場合は違う日で対応できる柔軟性はある。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに即したケアを心がけており、決まった時間での就寝時間や、起床時間は決めていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の好む役割作りを心がけている。又、生活歴を活かした趣味活動や、楽しみごとをそれぞれ個人個人の意向に合わせて、精一杯できる事をしている。(例、読書、外出、食べ物など)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人、ご家族様の意見を尊重しながら、できる範囲で自力での金銭管理の支援をしている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の意向を踏まえ、外出援助をしている。外出しながら利用においても、季節の節目毎に、大きな行事としての外出支援はしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出してみたい場所についての調査のもと、昨年度は水族館へいきました。今年度も調査のもと、なかなか行ってみたいが、いけない場所への外出支援は継続していく予定である。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙のやりとりは基本的に自由であり、又機会のない利用者においても、年賀状等でやりとりできる様な支援はしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客、面会者にはお茶を出す等の工夫をし、過ごしやすいように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、職員一同とよく話し合いながら、身体に関わらず、利用者の意思を拘束することもないようなケアを心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーター前に関しては、利用者、ご家族様了承の元安全の為鍵はかけている。玄関においても、不審者対策として鍵はかけている。外出時などは、利用者の意思のもと開錠できる状態にある。(ご家族様の方からは安心との声もあがっている。)		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常的に所在や様子は把握している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の能力に応じて、必要なものは、危険を回避できるような取り扱いをしている。洗剤等は夜間鍵のついているところへ、針やはさみ等に関しては希望時とりだせるようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しては、細かな配慮をしている。ハード面においてや、個人の身体特徴に応じた、能力の維持、向上の面においてもケアしている。(外部からの防止ばかりでなく、利用者本人の能力を保つ事にも力を入れている。)		ホーム内の研修を組み立て中
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急マニュアル他、ユニット勉強会にて多少の知識は学んでいる。訓練を定期的に行ってははいない。		今年度は、社内研修の一環として救命救急においての研修へも参加する。応急マニュアルについては、朝のミーティング時の簡単な勉強会で確認していく予定である。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練を実施している。運営推進会議等で災害時の対応についても地域の方々へ積極的に相談はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	プランの見直し、変更時にはご家族様の方へもリスクに対しお話をしている。又ホームでできる最大のケアを踏まえて話し合いのもと対応策を練っている。中にはリスクを理解していただけないご家族様もいるかもしれない。		リスクの多い利用者については、更にご家族様が理解していただけるような、記録の形式を検討していきたい。普段の様子や、職員の対応についても具体的に分かるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	業務日誌に、「異常発見」という項目を設け、早期の異常発見に心がけている。その項目ができてから、小さな変化にも職員一同情報を共有できるようになっている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チームリーダー以上に関しては、把握している。一般職員に関しては、服薬の変化や、服薬で関わる状態の変化の症状についてのみ周知してもらい、異常時は上司へ報告し判断を仰ぐこととなっている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者を中心に乳製品を摂って頂いたり、水分を多く摂って頂いたり、運動をプランの中へも取り入れながら支援している。下剤服用者もいるものの、なるべくなら服用しないよう心がけている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人に見合った口腔ケア方式をとっている。		口腔ケアはできているが、口腔内の状態の把握の為に、口腔ケア後の観察を取り入れたい。
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に応じた栄養バランスを確保するようにしている。嗜好、摂取量、疾病を考え、時には医師、看護師への相談の元、生きる上で大切な食事を楽しめる事を重視しながら食事の支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを元に取り決めがある。時期や流行を考慮し、勉強会で再度の復習をしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒や、衛生管理、清掃の方法についてマニュアルがあり、そのように進められている。食材についても解凍方法についても、朝のミーティング時などに確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体が鉄筋ビルなので、これ以上の工夫は難しい状態にある。玄関を開けたら気持ちの良いよう工夫はしている。過ごし場所なども緑を多く取り入れたり、観葉植物をとりいれている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや、光については気を配っている。又、居心地のよい空間について利用者の意見もとられている場面もある。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの利用者が過ごしやすいような居場所を心がけている。常時カンファレンスにて、一人ひとりの過ごしやすい環境について話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、あらかじめ本人の家と思えるような部屋にする事をすすめ、持ち込みは自由に行っている。又、利用者の状態変化などで落ち着かなくなった時も、居心地の良い環境に関して話し合い、工夫はしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気には十分気をつけている。巡回時の温度チェックなども行い、利用者の状況に応じて対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全て安全な建物管理よりも、自立を支援するケアに力をいれている。身体能力の維持や、道具の工夫、意欲を引きだすようにする事で、安全で自立した生活を支援している。(ハード面では介護職には、どうにもできない事もある。)</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>残存能力は活かしている。個人の現在の力を踏まえて毎日のカンファレンスで様々な事が検討されている。認知症の混乱や、失敗する事のリスクについては、昨年度の研修でも取り入れ、職員への周知に努めている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>廊下での歩行練習や、手すりを使用しての立ち上がり練習など活動できる場所の提供はしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

透析など必要な認知症のある方を医療につなげる事や、更に医療との密な連携をとる中で医療を受けながらも安心して残りの人生を暮らせる場を提供する事をモットーとしている。その他の困難事例においても、当ホームのスタッフ、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士、社会福祉主事任用、認知症ケア専門士等様々なパートナーズが揃った中で、各々の専門的視点からみて、利用者一人ひとりの個性を大切に、それらを活かし発揮しながら生活できる様支援している。